

どうする? NISSHINBO

「環境カンパニー」へ 針路定める

多くの成長領域を切り開き、好業績を続ける日清紡。分社化を決定し、環境カンパニーへの変ぼうを目指すなど、企業公器の精神を全うするため、改革へのためらいは無い。岩下俊士社長に展望を聞いた。

企業体質の さらなる強化

当社の二〇〇八年三月期連結決算では、売上高が前期比三・一%増の三千二百二十四億円、経常利益が同九・五%増の百八十九億円となり過去最高を更新。営業利益も過去二番目を記録するなど好業績をあげることができました。

また、同期は「選択と集中」をより一層推進しました。繊維事業においてはこれまで市場環境の悪化にリストラが追いつかず、結果につながりませんでした。そのため生産工場の閉鎖・集約だけでなく、不採算部門の整理、さらに生産・在庫管理にまで踏み込んだ改革を果敢に実行しました。これらのリストラにより、多額の損失が発生しましたが、これは一過性のものではありません。

さらに今期は、機能化学品「カルボジライト」の黒字転換が見込める化学品事業、急伸する太陽電池関連の精密機器事業、そして大型賃貸物件が昨年オープンした不動産事業が業績をけん引し、売上高、営業利益、経常利益において過去最高を更新する見込みです。

サブプライムローン問題に端を発した北米市場の動揺は、ブレーキやエレクトロニクス事業において懸念材料ですが、当社は為替や市況に左右されにくい柔構造の事業体質により、その影響を最小限にとどめています。属性の異なる事業を束ねていることで、市場が偏っておらず、為替に対してもほぼ中立を保っているためです。

株主配分率143% ROE改善、 そして分社化へ

配当につきましては、年十五円配当を基本配当として収益向上に応じて増配に努めてまいります。

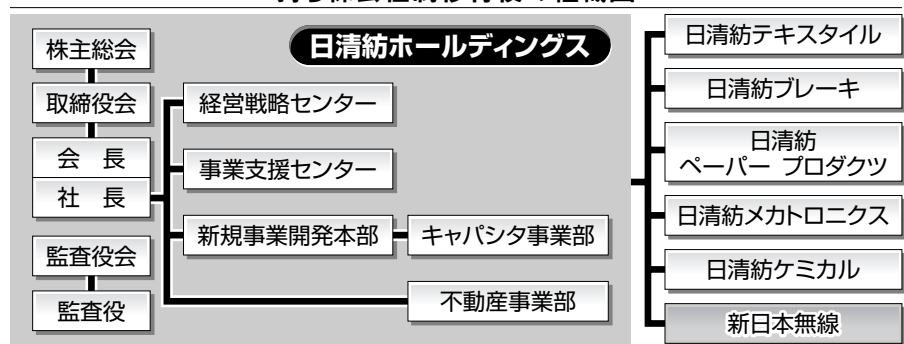
また、当社は株主配分として自己株式の買い入れおよび消却を積極的に進めています。表のように、前期の配当と自己株式の買い入れとの合計は百七十五億八千万円、株主配分率は一四三%となりました。

配当	29.0億円
自己株式買い入れ	146.8億円
合計	175.8億円
当期純利益	122.8億円
株主配分率	143%

自己株式の買い入れは株主配分の意味がある一方、当社の至上命題であるROE改善が主眼にあります。ROE改善のためにエクイティを減らすのか、リターンを増やす方に資金を使うべきか、成長事業の立ち上げを目前にし、潮目の変化が来ていると考えます。

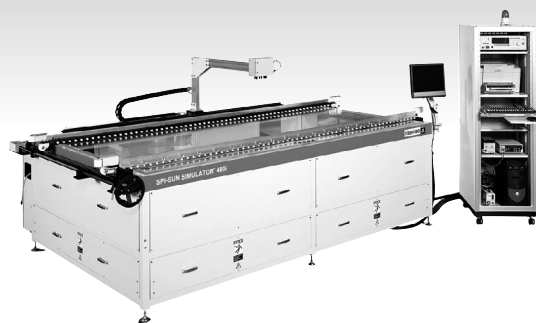
当社はさらなる飛躍のため、経営のあり方から変革する必要があると判断し、〇九年四月に分社化します。分社化した各事業会社に経営権限を委譲することで、それぞれの環境に適した機動性を持たせ、競争力を強化させていきます。この分社化と機を一にして、日清紡グループを新たな成長軌道に乗せてまいります。

持ち株会社移行後の組織図



【カルボジライト】

ポリ乳酸樹脂に代表される植物由来プラスチックを強化する唯一の低毒性添加剤。電子材料接着剤や塗料用の架橋剤としても使用される



【太陽電池製造設備】

後工程設備一式を製造している。特に検査装置のシミュレータは国内シェア90%以上を占める。温暖化対策、原油価格の高騰により、世界的に需要が急拡大

広 告



日清紡社長

いわした たかし
岩下 俊士氏

広告

企画・制作＝日本経済新聞社広告局

<http://www.nisshinbo.co.jp/>

最適解を。

環境関連の新規事業はいまや巨大市場をうかがうまでに成長した。これらの事業はすべて、温暖化に代表される地球全体の問題に対する日清紡からの最適解(こたえ)だ。

巨大市場の入り口に立つ

当社は環境事業をコア事業に育成しようとしています。紙やブレーキなど既存の事業分野でも環境問題への対応は不可欠ですが、環境関連の新規事業が、世界的な環境意識の高まりと共にいよいよ本格的に立ち上がりつつあります。特に太陽電池製造設備は、前期急速に業績を伸ばし今期はさらに売り上げ倍増の勢いです。そして、カルボジライト、燃料電池セパレータ、電気二重層キャパシタも市場の立ち上がりが見込まれています。

太陽電池製造設備は昨年のドイツ・ハイリゲンダムサミット以来、猛烈なフォロワーの風を受け続けています。現在生産が追いつかないほど国内外から注文をいただいております。来年三月には分社化にタイミングを合わせて新工場が立ち上がります。ここからさらに大きな収穫期に入っていくだろうと思います。

二酸化炭素(CO₂)削減の観点から今後、植物性プラスチックに一層脚光があたるでしょう。その製造に不可欠な添加剤としてのカルボジライトにも設備増強が必要であると考えています。当事業は今期より黒字化する見込みです。

燃料電池セパレータは〇九年度から家庭用燃料電池が本格的普及期に入ることにより、需要の急増が見込めます。市場優位を確立している当社のカーボンセパレータに対する引き合いは

活発で、すでに新工場の立案段階に入っています。

電気二重層キャパシタは現在搬送機用などに需要が伸びていますが、最終ターゲットは自動車への搭載です。実現すれば当社の姿を一変させる事業が垂直に立ち上がることになるでしょう。投資を惜しまず大きく育成するため、分社化後当面持ち株会社が管轄します。

人類社会に最適解(こたえ)を

ここにご紹介した新規事業群はどれも環境問題に対する「最適解(こたえ)」を持つ事業ばかりです。成長の度合いによっては一事業にとどまらず、日清紡グループの将来を支える事業会社としての独立も視野に入ってくるでしょう。

またアメリカをはじめとして政治的にも環境に対する対応は大きく変わりつつあり、環境事業は今後、世界市場を見据えた展開が必要になります。すでに太陽電池関連事業はアジア、ヨーロッパに拠点を築く段階に入っています。カルボジライト、セパレータ、キャパシタも国内にとどまらず、巨大な世界市場の中で生かされてこそ、真の人類社会への貢献につながる技術です。

ちょうど明日から洞爺湖サミットが開催されます。日本が政治・経済の両面から環境対策において世界をリードしていく、その一翼を担うことこそ公器たる企業のあるべき姿だと確信しています。



【電気二重層キャパシタ】

大量の電気を極めて短時間に充電し、一気に放出できる蓄電デバイス。ハイブリッド車のエネルギー回生や、アイドリングストップ機能を普及させることが期待されている



【燃料電池セパレータ】

クリーンエネルギーとして大きな期待のかかる燃料電池の主要構成部品。カーボン製では質量共に世界No.1